国史跡　西南戦争遺跡

植木・玉東戦跡ガイドマップ
西南戦争

～この地に吹いた歴史の疾風～

熊本市・玉東町

交通アクセス

JRをご利用の場合

新幹線&在来線

博多駅 —新幹線 約30分— 新玉名駅 —車で約10分— 玉名駅

博多駅 —普通 約120分— 玉名駅 —普通 約9分— 木葉駅 —普通 約5分— 田原坂駅 —普通 約5分— 植木駅 —普通 約15分— 熊本駅 —普通 約40分— 八代駅

熊本駅 —新幹線 約45分— 鹿児島中央駅

※田原坂駅は無人駅です

自動車をご利用の場合

福岡 約1時間20分 / 長崎 約2時間40分 / 大分 約3時間40分 / 宮崎 約3時間50分 / 鹿児島 約3時間40分 → 九州自動車道植木I.C

九州自動車道植木I.C —国道3号～国道208号 約25分— 田原坂

九州自動車道植木I.C —国道3号～国道208号 約30～40分— 横平山 吉次峠

田原坂 —約10分— 横平山 吉次峠

※北熊本スマートI.Cをご利用の場合、田原坂まで約15分、横平山、吉次峠まで約20分

高速バスをご利用の場合

福岡 ひのくに号 約2時間 / 長崎 りんどう号 約2時間20分 → 九州自動車道植木I.C —車で 国道3号～国道208号 約25分(約8km)— 田原坂

大分 やまびこ号 約3時間30分 / 宮崎 なんぷう号 約3時間30分 / 鹿児島 きりしま号 約3時間40分 → 熊本交通センター —バス(玉名・荒尾方面)で 国道3号～国道208号 約50分— 田原坂

産交バス鈴麦バス停下車、徒歩で約20分
産交バス七本バス停下車、徒歩で約20分
産交バス植木バス停下車、タクシーで約10分
JR木葉駅よりタクシーで約10分
JR田原坂駅より徒歩で約30分

■最寄りの駅
JR木葉駅／TEL.0968-85-2021

お問い合わせ

玉東町教育委員会 社会教育課
〒869-0312 熊本県玉名郡玉東町白木1番地1
TEL.0968-85-3609 FAX.0968-85-2276

熊本市文化振興課 植木分室
〒861-0195 熊本県熊本市植木町岩野238番地1
TEL.096-272-0551 FAX.096-272-1177

国史跡 西南戦争遺跡最新情報はこちら
https://seinansensou.jp
国史跡 西南戦争遺跡　検索　クリック

西南戦争情報モバイルサイト
モバイルサイトには、こちらのQRコードから簡単にアクセスできます。

令和2年3月改訂(玉東町)

西南戦争とは

政府軍と薩摩軍による日本近代史上最大の内戦となった西南戦争。その時代背景と発端とは…

徳川幕府解体後、明治政府は廃藩置県や地租改正を進め、封建から近代国家への歩みを進めていった。しかし、旧藩閥の対立や政争、官僚の汚職・職権乱用事件などを抱え、新政府内は決して安定したものではなかった。また、新政府の政策により特権や経済基盤を失った旧士族の不満が徐々に高まっていった時期でもある。

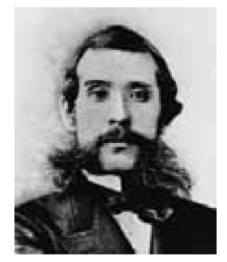
そのような状況のなか、明治6年に参議・近衛都督の職にあった陸軍大将・西郷隆盛が、いわゆる征韓論争について大久保利通や岩倉具視と意見が対立し、下野。西郷の後を追うように、桐野利秋・篠原国幹の両陸軍少将をはじめ宮内大丞・村田新八ら政府の中枢にいた鹿児島県出身の官僚・軍人約600名も大挙して辞職し帰郷した。これを境に、維新の原動力となった薩摩の藩閥は、西郷隆盛派と政府に残った大久保利通派に大きく分裂することとなる。

西郷隆盛

鹿児島では、帰郷した桐野利秋・篠原国幹らを中心に士族中心体制が構築されつつあるなか、明治7年に私学校が開設される。私学校の組織には藩政の骨格がそのまま再編成され、役人の人事も中央に従わず、鹿児島はさながら独立王国の観を呈していた。明治維新を成し遂げた薩長土肥のなかでも、抜きんでた力を誇る薩摩藩の軍事力はそのまま健在であり、また反政府感情も極めて高かったことから、中央政府にしてみれば鹿児島はいつ爆発してもおかしくない爆弾のようなものであった。

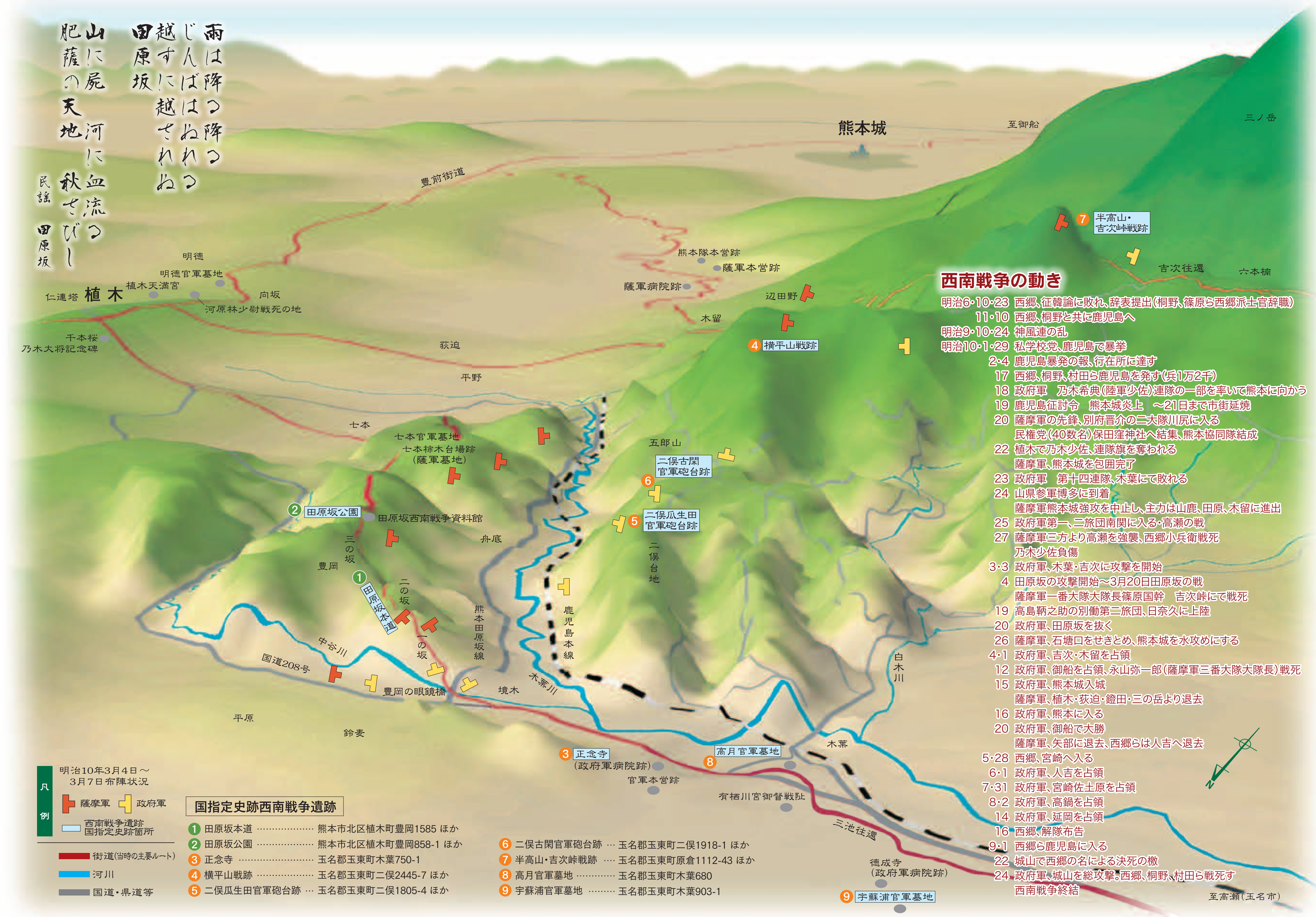
明治7年2月、江藤新平らによる「佐賀の乱」が勃発。明治9年の廃刀令や金禄公債証書発行条例などの公布でますます士族の不平が高まるなか、同年10月には熊本「神風連の乱」・福岡「秋月の乱」・山口「萩の乱」など、その思想的背景は必ずしも同じではなかったが、たて続けに士族の反乱が起こる。相次ぐ反乱にも関わらず沈黙を守っていた薩摩は、西郷の威望によりその爆発力を押さえ込んでいたのである。

鹿児島の処遇について、長州閥の木戸孝允は薩閥の代表である大久保の責任を厳しく追及。木戸の突き上げにより大久保は、腹心であり同じく鹿児島出身の大警視・川路利良らと善後策を図る。川路は12月に鹿児島出身の23名を密偵として鹿児島に潜入させ、状況の視察と私学校関係者の離間工作を指示。政府はこれに呼応して、鹿児島にあった陸軍省所管の武器弾薬を秘密裏に持ち出そうとする。


大久保利通

これを政府の露骨な挑発と受け取った急進派の私学校生徒は、桐野や篠原ら私学校幹部に無断で火薬庫を襲撃。さらに政府密偵の大量逮捕によって、真偽は不明ながらも、政府との対立は決定的となっていた。

予期せぬ火薬庫襲撃事件に西郷は「汝どま、弾薬に何の用があっちゅうとか!ないごて、追盗ったとか!(お前たちは弾薬に何の用があるのか!どうして盗んだのか!)」と幹部を前に激怒したという。しかしながら、私学校幹部ほか挙兵決行の意志が高いのを知ると、ついに西郷も決意。ここに運命の振り子が大きく振られたのである。



西南戦争の動き

明治6・10・23 西郷、征韓論に敗れ、辞表提出(桐野、篠原ら西郷派士官辞職)
11・10 西郷、桐野と共に鹿児島へ
明治9・10・24 神風連の乱
明治10・1・29 私学校党、鹿児島で暴挙
2・4 鹿児島暴発の報、行在所に達す
17 西郷、桐野、村田ら鹿児島を発す(兵1万2千)
18 政府軍　乃木希典(陸軍少佐)連隊の一部を率いて熊本に向かう
19 鹿児島征討令　熊本城炎上　～21日まで市街延焼
20 薩摩軍の先鋒、別府晋介の二大隊川尻に入る
民権党(40数名)保田窪神社へ結集、熊本協同隊結成
22 植木で乃木少佐、連隊旗を奪われる
薩摩軍、熊本城を包囲完了
23 政府軍　第十四連隊、木葉にて敗れる
24 山県参軍博多に到着
薩摩軍熊本城強攻を中止し、主力は山鹿、田原、木留に進出
25 政府軍第一、二旅団南関に入る・高瀬の戦
27 薩摩軍三方より高瀬を強襲、西郷小兵衛戦死
乃木少佐負傷
3・3 政府軍、木葉・吉次に攻撃を開始
4 田原坂の攻撃開始～3月20日田原坂の戦
薩摩軍一番大隊大隊長篠原国幹　吉次峠にて戦死
19 高島鞆之助の別働第二旅団、日奈久に上陸
20 政府軍、田原坂を抜く
26 薩摩軍、石塘口をせきとめ、熊本城を水攻めにする
4・1 政府軍、吉次・木留を占領
12 政府軍、御船を占領、永山弥一郎(薩摩軍三番大隊大隊長)戦死
15 政府軍、熊本城入城
薩摩軍、植木・荻迫・鐙田・三の岳より退去
16 政府軍、熊本に入る
20 政府軍、御船で大勝
薩摩軍、矢部に退去、西郷らは人吉へ退去
5・28 西郷、宮崎へ入る
6・1 政府軍、人吉を占領
7・31 政府軍、宮崎佐土原を占領
8・2 政府軍、高鍋を占領
14 政府軍、延岡を占領
16 西郷、解隊布告
9・1 西郷ら鹿児島に入る
22 城山で西郷の名による決死の檄
24 政府軍、城山を総攻撃。西郷、桐野、村田ら戦死す
西南戦争終結

凡例
明治10年3月4日～3月7日布陣状況
薩摩軍　政府軍
西南戦争遺跡国指定史跡箇所
街道(当時の主要ルート)
河川
国道・県道等

国指定史跡西南戦争遺跡

1. 田原坂本道 …… 熊本市北区植木町豊岡1585 ほか
2. 田原坂公園 …… 熊本市北区植木町豊岡858-1 ほか
3. 正念寺 …… 玉名郡玉東町木葉750-1
4. 横平山戦跡 …… 玉名郡玉東町二俣2445-7 ほか
5. 二俣瓜生田官軍砲台跡 …… 玉名郡玉東町二俣1805-4 ほか
6. 二俣古閑官軍砲台跡 …… 玉名郡玉東町二俣1918-1 ほか
7. 半高山・吉次峠戦跡 …… 玉名郡玉東町原倉1112-43 ほか
8. 高月官軍墓地 …… 玉名郡玉東町木葉680
9. 宇蘇浦官軍墓地 …… 玉名郡玉東町木葉903-1

Episode I 西南戦争
連隊旗事件
河原林少尉はおるか!

のちの陸軍大将で日露戦争 旅順攻略戦で知られる乃木希典は、幕末の青年時には騎兵隊の一員として第二次長州征伐に参加した長州藩士であった。明治8年、陸軍少佐であった乃木は小倉の歩兵第十四連隊の連隊長(心得)として赴任。2年後の明治10年に西南戦争という歴史の大河に巻き込まれることとなる。

2月15日鹿児島を発ち熊本へ進軍を開始した薩摩軍の報に、乃木は熊本城守備の命令を受ける。2月22日の薩摩軍の熊本城攻撃時には、征討軍二個旅団はまだ神戸から博多に到着したばかりであり、このとき先行した乃木の部隊が過酷な運命を辿ることになるのである。21日に一個大隊を率いて熊本城に向かった乃木隊は22日に高瀬に到着するが、熊本方面で白煙が上がっているのを認め、薩摩軍がすでに熊本城攻撃を開始したのを知る。ここまでの行軍で兵の疲労は激しく、比較的元気な兵60名余りを率いて植木へ向かった。夕刻には後続も徐々に追いつきはじめてはいたが、すでに闇は深くなっていた。

一方薩摩軍では「政府軍、植木方面へ現る」の報で、五番大隊(池上四郎隊)の村田三介小隊と四番大隊(桐野利秋隊)の伊東直二小隊の計400名をすでに植木に向かわせていた。暗闇の中、乃木の部隊と村田隊が衝突。近代的で優秀な火器を持つ乃木隊は一時優勢であったが、追いついた薩摩軍の伊東隊が村田隊と合流し、白刃突撃の白兵戦を敢行する。薩摩軍の猛襲で後退を余儀なくされた乃木隊は、後方で隊伍を立て直すこととし、連隊旗手・河原林雄太少尉に連隊旗を捲かせて退却。しかし後方で部隊の集結が終わっても、河原林の姿がない。乱戦の中で河原林は戦死し、連隊旗が薩摩軍の手に渡ってしまったのである。そのいきさつについては諸説あるが、いずれにせよ乃木にとっては生涯における最大の痛恨事であり、その恥辱と自責の念は凄まじかったという。のちの旅順攻略戦で二人の息子を戦死させ、明治天皇大喪の日の自決へと至る背景には、この事件が深く影響していたともいわれる。［MAP㉓／4-E］

乃木希典

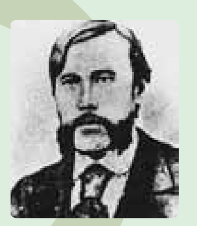
政府軍

谷　干城

×

桐野利秋

薩摩軍


村田新八

Episode II 西南戦争
名将・篠原国幹の壮絶な死
あの外套を撃て!

薩摩軍一番大隊長・篠原国幹は現役の陸軍少将であったが、西郷の下野に従って中央を去った。鹿児島私学校の最高幹部のひとりであり、西郷の右腕ともいうべき存在で、眼光は鋭く、寡黙であったが、接する者はみな畏敬の念を抱いたという。

田原坂に劣らぬ激戦が展開された吉次峠の戦闘では、銀装の太刀を帯び、フランス式の燦然とした制服と黒羅紗の外套をまとっていた。ひるがえる外套の緋色の裏地は目にも鮮やかで、戦闘では常に陣頭に立って指揮する颯爽としたその英姿は、遠くからでも目立ったという。

対峙する官軍の中に、薩摩出身で近衛第一連隊の江田少佐がいた。江田はかつては篠原から親しく指導を受けており顔見知りであった。運命の皮肉か、濃霧のなか前方に鮮やかな手際で指揮する篠原の姿を確認する。夕刻も迫り、友軍の劣勢を挽回するには篠原を倒して薩摩軍に動揺を与える以外にないと判断し、狙撃兵らに「あの外套を撃て!」と一斉射撃を命じたのである。

このとき篠原は42歳。薩摩軍随一の名将のあまりにも早い死は、その後の薩摩軍の運命を暗示しているかのようであった。［MAP㊾／5-B］

篠原国幹(薩摩軍)

Episode III 西南戦争
多量の小銃弾

政府軍が田原坂の十七昼夜にわたる戦闘で消費した弾薬は、1日平均約32万発といわれている。日露戦争における第二次旅順攻撃の時が1日30万発だったというから、驚くべき数字である。物量で優勢な政府軍でさえ、その弾薬補給には頭を抱えた。薩摩軍にいたっては相当に悲壮なものであった。前線で鍋釜に鉛を溶かして弾薬を作ったり、農民に政府軍の撃った弾を拾わせたりして凌いだという。

戦跡スポット

②豊岡眼鏡橋から①一の坂 二の坂 三の坂への道　植木 2-B
麓の豊岡眼鏡橋からの標高差は僅か80mの田原坂。一の坂、二の坂、三の坂と頂まで1.5Kmの曲がりくねった道が続く。この道だけが唯一大砲を曳いて通れる道幅があり、この道を越えなければ政府軍の砲兵隊は熊本へは進めない。また薩摩軍にとっては生死を制する道である。ともに戦略上の重要地であり、この平凡な坂道を中心とした一帯が激戦の舞台となったのである。

③谷村計介之碑　植木 2-C
政府軍本営に連絡を取るために密使として熊本城を抜け出した谷村であったが、途中で熊本隊に捕まる。「老婆を残してきたので城を脱走した」と偽り、数日薩摩軍に身を寄せていたが隙を見て逃げ出し、見事任務を完遂した。その後、田原坂の戦いで戦死した。

⑥田原坂公園・田原坂西南戦争資料館　植木 2-C
田原坂公園は、いまではツツジや桜の名所として知られる美しい公園である。西南戦争では17日間にわたる戦闘が繰り広げられた激戦地でもあった。園内には、激戦の跡が生々しい弾痕の残る家(復元)や慰霊塔・土蔵造りの資料館が建ち、往時の戦いを知ることができる。政府軍が田原坂の戦闘で消耗した小銃の弾薬は、一日平均32万発、多い日は60万発にものぼったという。

⑦七本柿木台場薩軍墓地　植木町 3-C
明治10年3月初旬から4月中旬まで続いた田原坂周辺の戦いで、木留・七本付近で戦死した薩摩軍や熊本隊の兵士311名が埋葬されている薩軍墓地。地域的にみて政府軍が田原坂の攻略に成功して薩摩軍の本営まで押し迫った時期の戦死者とみられる。

⑧七本官軍墓地　植木 3-C
西南戦争で戦死した政府軍の軍人・軍夫・警察官を埋葬した官軍墓地は県内に21ヵ所つくられている。この七本官軍墓地には、「田原坂の戦い」のあと、植木や吉次・木留・辺田野・平野・滴水などで戦死した各鎮台および近衛兵300余名が埋葬されている。[県指定文化財]

⑬山縣有朋歌碑　植木 5-C
激戦の地であった吉次峠に至る途中にある。昭和17年に有志により建立されたもので「木留山しらむ砦の捨てかがりけふると見しは桜なりけり」と刻まれている。

⑭辺田野熊野座神社　植木 5-C
4月上旬の激戦で、乃木少佐以下9名が同神社境内で負傷。神社境内にはこの時を詠んだ乃木大将の詩碑がある。

⑮薩軍本営跡 ⑯熊本隊本営跡 ⑰薩軍病院跡　植木 5-C
木留は薩摩軍の本営と薩軍病院がおかれていた場所である。また当時薩摩軍に呼応して、政府軍と戦闘を交えた各地編成の諸隊(薩摩軍に党するということから党薩隊とも呼ばれる)があった。そのうちの熊本県下四隊(熊本隊・竜口隊・協同隊・人吉隊)のひとつ「熊本隊」の本営もあった。

⑲荻迫柿木台場・薩軍美少年の墓　植木 4-D
昭和7年に柿木台場の根元に建てられた。
「君ハ日州庄内ノ人　西南役僅年十五才ニシテ薩軍ニ投ジ奮戦此地ニ没ス　時ニ明治十年二月二八日義軍遂ニ敗レシモ君カ英霊ハ永ク此地ニ眠ラン」と刻まれている。

⑳山頭遺跡　植木 4-E
政府軍と薩摩軍が激しい銃撃戦をおこなった遺跡で、発掘調査によって官薩両軍が直接銃火を交えた遺跡が発見されたのは国内で初めて。政府軍の塹壕跡からは当時最新式のスナイドル銃や薬莢が出土。薩摩軍の陣地跡からはエンフィールド銃などの雷管が出土した。

㉒向坂官軍墓地　㉓河原林少尉戦死の地　植木 4-E
㉙千本桜　乃木大将記念碑　植木 3-E
明治10年2月22日、乃木少佐率いる歩兵第十四連隊は向坂で薩摩軍と遭遇。この日の戦闘が田原坂をめぐる激戦の序章となった(エピソードⅠ参照)。向坂には官軍墓地のほか「河原林少尉戦死の碑」が残る。また、この戦闘で乃木連隊が撤退した千本桜の地には「乃木大将記念碑」がある。

㉕植木天満宮　植木 4-E
両軍の緒戦の地。2月22日、乃木少佐の前衛隊と薩摩軍の村田および伊東隊が衝突。田原坂をめぐる激戦の戦端が開かれた。

㉘薩軍弾薬庫跡　植木 3-E
薩摩軍の植木での拠点となっていた真教寺と西寺。薩軍弾薬庫は、この西寺にあった。田原坂で敗退した薩摩軍は植木へ退却、それを追う政府軍とのあいだで激しい戦闘が繰り広げられる。このような状況のなか、突如として大音響をたてて火薬庫が爆発、寺を吹き飛ばした。その大爆発の理由はいまだに不明となっている。

周辺の文化財・旧跡など

⑪円台寺磨崖仏群　植木 4-C
円台寺の参道の上がり口にあたる崖の中腹の岩肌に、見事に彫られた磨崖仏がある。かすかにのこる彩色が、鎌倉時代と推定される石仏の作者の心を、時を越えて伝えている。[県指定文化財]

㉚小野泉水公園と小野小町　植木 2-F

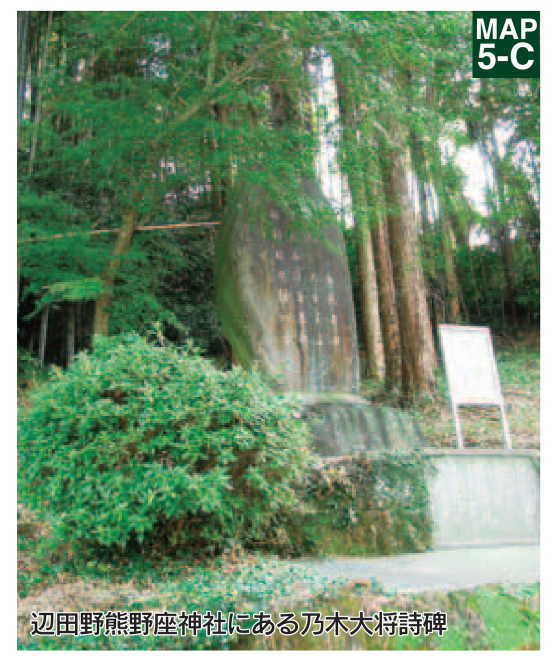
㉜味取観音堂　植木 1-E
放浪の詩人「種田山頭火」が1年半も投宿した味取観音堂。山頭火をも魅了した風情があるお堂では、山頭火ソックリの住職さんがあたたかく迎えてくれます。

豊岡眼鏡橋

谷村計介之碑

田原坂西南戦争資料館

七本官軍墓地



辺田野熊野座神社にある乃木大将詩碑

山頭遺跡から出土した薬莢

千本桜・乃木大将記念碑

温泉　植木

植木町には、植木温泉と宮原温泉のふたつがある。合志川の畔にある植木温泉は、50度を超える泉温と豊富な湯量が特長。宮原温泉は静かな田園温泉。"玉の肌"ともいわれる植木の温泉は、どちらも肌になめらかな優しい湯である。

花の見所

- ●田原坂公園(桜)3月下旬～4月上旬
- ●田原坂公園(ツツジ)4月上旬～4月下旬
- ●笹尾(しだれ桜)3月下旬～4月上旬
- ◆横平山(桜)3月下旬～4月上旬
- ◆半高山・吉次峠公園(桜)3月下旬～4月上旬

田原坂公園

半高山公園

植木 玉東 西南戦争 戦跡ガイドマップ

植木エリア

①一の坂、二の坂、三の坂
②豊岡眼鏡橋
③谷村計介之碑
④田原熊野座神社
⑤崇烈碑
⑥田原坂公園・田原坂西南戦争資料館
⑦七本柿木台場薩軍墓地
⑧七本官軍墓地
⑨菱形の池
⑩菱形八幡宮
⑪円台寺磨崖仏群
⑫円台寺薬師堂
⑬山縣有朋歌碑
⑭辺田野熊野座神社（乃木大将詩碑）
⑮薩軍本営跡
⑯熊本隊本営跡
⑰薩軍病院跡
⑱荻迫神社
⑲荻迫柿木台場・薩軍美少年の墓
⑳山頭遺跡
㉑滴水官軍本営跡
㉒向坂官軍墓地（明徳官軍墓地）
㉓河原林少尉戦死の地
㉔向坂緒戦の地
㉕植木天満宮
㉖仁連塔神社
㉗植木学校記念碑
㉘薩軍弾薬庫跡
㉙千本桜・乃木大将記念碑
㉚小野泉水公園
㉛七国神社
㉜味取観音堂・山頭火句碑
㉝平尾観音

玉東エリア

㉞宇蘇浦官軍墓地
㉟有栖川宮督戦の地
㊱上木葉官軍本営跡
㊲正念寺
㊳田原坂攻撃官軍第一線の碑
㊴高月官軍墓地
㊵櫻田惣四郎（熊本隊参謀）辞世詩碑
㊶二俣瓜生田官軍砲台跡
㊷官軍本営出張所跡
㊸二俣古閑官軍砲台跡
㊹薩軍兵站の地
㊺横平山戦跡（公園）
㊻西安寺五輪塔群・西安寺跡
㊼半高山戦跡（公園）
㊽吉次峠戦跡（公園）（佐々友房の詩碑）
㊾篠原国幹戦没の地
㊿立岩砲台跡
51原倉西官軍砲台跡
52年の神公園（水源）
53薩軍三勇士の墓
54山北八幡宮仁王像
55ふれあいの丘
56もっこす猿窯元
57木葉猿窯元
58乃木希典奮戦の地
59稲佐廃寺跡
60薩軍砲台跡
61徳成寺
62西原製鉄所跡

凡例

九州自動車道		遊歩道	
国道		JR在来線	
県道		JR九州新幹線	
一般道		小・中学校	
九州自然歩道		郵便局	交番

戦跡スポット

㉞宇蘇浦官軍墓地（うそうらかんぐんぼち）・㊴高月官軍墓地（たかつきかんぐんぼち） 玉東 1-B / 玉東 2-B

宇蘇浦官軍墓地には政府軍の将校、兵士および抜刀隊として参加した警視局巡査たち、計399名戦死者が葬られている。小倉駐屯の熊本鎮台歩兵第十四連隊の吉松秀枝少佐や、武勲で有名な谷村計介の墓もある。高月官軍墓地は現存する官軍墓地中、最大規模のもので、980名の戦死者が葬られている。[国指定史跡]

宇蘇浦官軍墓地

㉟有栖川宮督戦の地（ありすがわのみやとくせんのち）（丸田公園） 玉東 1-B

征討総督に任ぜられた有栖川宮熾仁親王が田原坂攻略戦の戦地を見て廻られた地であり、記念碑が建立されている。現在は、ツツジの花が趣を添える美しい公園。[町指定史跡]

㊱上木葉官軍本営跡（かみこのはかんぐんほんえいあと） 玉東 1-B

もとは上木葉の高田家の屋敷跡で、田原坂占領まで政府軍第一・二旅団の本営として使用された。旅団の本営が七本に移った後も陸軍中将・山縣有朋が本営を設け、作戦指導や戦後処理などをおこなった。

上木葉官軍本営跡

㊲正念寺（しょうねんじ）・61徳成寺（とくじょうじ） 玉東 2-B / 玉東 1-B

負傷した兵士を治療した政府軍の病院跡。両寺では日本赤十字社の前身"博愛社"が活動したと伝わる。正念寺の山門には当時の弾痕が残っている。[正念寺山門:国指定史跡]

徳成寺

㊶二俣瓜生田官軍砲台跡（ふたまたうりゅうだかんぐんほうだいあと） 玉東 2-C

田原坂砲撃の為に設置された野戦砲台の跡。上木葉の本営から毎日大砲が運び込まれていたという。近年の発掘調査で、大砲の轍の痕跡等が確認された。[国指定史跡]

㊺横平山戦跡（よこひらやませんせき）（公園） 玉東 3-C

田原坂・吉次峠と並ぶ三大激戦地跡で、戦術的に重要な地点であったことから両軍による激しい争奪戦が行われた。麓には両軍の戦傷者が水を求め、血で染まったという湧水池がある。[国指定史跡]

正念寺

㊼半高山戦跡（はんこうやませんせき）（公園）・㊽吉次峠戦跡（きちじとうげせんせき）（公園） 玉東 5-B / 玉東 4-B

最も激しい戦闘が行われた場所のひとつで、薩摩軍防衛線の最後の牙城となった地である。吉次往還の難関"吉次峠"は、"地獄峠"と恐れられた険しい場所で、死屍累々の攻防戦が展開された。党薩十二隊のひとつ、熊本隊の一番小隊長佐々友房が「君みずや吉次の険は城よりも険なり…」と詠った詩碑が、吉次公園にある。[国指定史跡]

㊾篠原国幹戦没の地（しのはらくにもとせんぼつのち） 玉東 4-B

薩摩軍一番大隊長篠原国幹は、薩摩人に大変慕われた人物であった。吉次峠では、その絶妙な用兵で精強な薩摩軍を指揮し先頭に立って戦ったが、狙撃を受け壮絶な戦死を遂げた。後に植えられた桜は"国幹（こっかん）桜"として親しまれている。[Epispde II]

二俣瓜生田官軍砲台跡

53薩軍三勇士の墓（さつぐんさんゆうしのはか） 玉東 3-B

薩摩軍萩原隊と思われる三名が葬られている。玉東・西安寺地区周辺の戦闘で負傷した三名は上白木地区の民家に匿われ治療を受けるが、その甲斐なく絶命。その地に葬られ、現在も供養の火が絶えない。

58乃木希典奮戦の地（のぎまれすけふんせんのち） 玉東 2-A

植木・向坂にて連隊旗を奪われた乃木少佐率いる歩兵第十四連隊（Episode I）は、形勢不利の為、翌23日木葉に後退。しかし、木葉の戦いでも苦戦し、ついに退却することとなる。退却の途中、玉東・稲佐付近にて乃木は薩摩軍に襲われ落馬。大橋伍長、摺沢少佐が奮戦し身を挺して乃木を助けた。九死に一生を得た乃木は木葉川を渡り山田寺（現玉名市寺田）へ退避して隊を集結している。

周辺の文化財・旧跡など

㊻西安寺五輪塔群（さいあんじごりんのとうぐん） 玉東 3-B

鎌倉時代に建立された相良氏歴代の供養塔。[県指定重要文化財]

54山北八幡宮仁王像（やまきたはちまんぐうにおうぞう） 玉東 3-B

地元では金剛力士とも呼ばれており、両足の間に頭を入れると風邪をひかないといわれている。[町指定建造物]

59稲佐廃寺跡（いなさはいじあと） 玉東 1-A

平安期を通じて存続した寺院で、特色のある朝鮮新羅系の瓦が出土している。[県指定史跡]

62西原製鉄所跡（にしばるせいてつしょあと） 玉東 4-B

平安時代の製鉄所跡。現在も炉跡が残っている県下でも珍しい遺跡。[県指定史跡]

篠原国幹 戦没の地

交流施設 玉東

55ふれあいの丘 玉東 2-B

交流センター（温浴施設）やデイサービス、保健センターからなる総合福祉施設。

名産品

玉東

56もっこす猿窯元（ざるかまもと） 玉東 2-B

伝統の木葉猿郷土玩具製作を継承するかたわら、古来の手法を活かした新製品の開拓にも力を入れている。

57木葉猿窯元（このはざるかまもと） 玉東 2-B

木葉猿は、同地に伝わる伝説から生まれたもので、悪病・災難除け・夫婦和合・子孫繁栄の守神とされている。古代「はにわ」の技術から発展したともいわれるこの素焼きの猿は、その素朴さとユーモラスな姿が珍重されている。

農産物・特産品

玉東

みかん・すいか・米・梨・桃・柿
いちご・さつまいも
ハニーローザ（スモモ）

植木

すいか・メロン・みかん・桃・柿
ぶどう・デコポン・いちご
すもも・米

西南戦争 戦跡巡りコース

コース1 西南戦争 戦跡巡り玉東ルート

JR木葉駅 車で約5分 58乃木希典奮戦の地 車で約3分 61徳成寺 徒歩で約3分 ㉞宇蘇浦官軍墓地 車で約3分または徒歩約15分 ㉟有栖川宮督戦の地 車で約2分または徒歩約10分 ㊱上木葉官軍本営跡 車で約2分または徒歩約10分 ㊲正念寺 車で約2分または徒歩約10分 ㊴高月官軍墓地 車で約10分 ㊶二俣瓜生田官軍砲台跡 車で約1分または徒歩約3分 ㊷官軍本営出張所跡 車で約3分または徒歩約15分 ㊹薩軍兵站の地 車で約3分 ㊺横平山戦跡（公園） 車で約7分 ㊿立岩砲台跡 車で約3分 ㊽吉次峠戦跡（公園） 車で約3分 ㊼半高山戦跡（公園） 車で約20分 JR木葉駅

コース2 西南戦争 戦跡巡り植木ルート

九州自動車道植木I.C 車で約10分 ㉗植木学校記念碑㉖仁連塔神社㉘薩軍弾薬庫跡 車で約5分 ㉕植木天満宮㉓河原林少尉戦死の地 車で約5分 ㉑滴水官軍本営跡 車で約5分 ⑲荻迫柿木台場⑱荻迫神社 車で約5分 ⑰薩軍病院跡⑯熊本隊本営跡⑮薩軍本営跡 ⑭辺田野熊野座神社（乃木大将詩碑） 車で約5分 ⑬山縣有朋歌碑 車で約5分 河原立薩軍墓地 車で約10分 ㊳田原坂攻撃官軍第一線の碑②豊岡眼鏡橋①一の坂、二の坂、三の坂③谷村計介之碑 ⑥田原坂公園・田原坂西南戦争資料館⑤崇烈碑・慰霊塔・美少年像 車で約5分 ⑧七本官軍墓地 ⑦七本柿木台場薩軍墓地 車で約5分 ㉙千本桜・乃木大将記念碑 車で約20分 九州自動車道植木I.C

コース3 西南戦争 三大激戦地ルート

九州自動車道植木I.C 車で約25分 ⑥田原坂公園・田原坂西南戦争資料館 車で約10分 ㊺横平山戦跡（公園） 車で約10分 ㊽吉次峠戦跡（公園）・㊼半高山戦跡（公園） 車で約30分 九州自動車道植木I.C

⑥田原坂公園・田原坂西南戦争資料館

㊺横平山戦跡（公園）

㊼吉次峠戦跡（公園）

コース4 西南戦争 連携活用トレッキングルート

JR木葉駅 徒歩で約25分 ㊶二俣瓜生田官軍砲台跡 徒歩で約3分 ㊷官軍本営出張所跡 徒歩で約5分 ㊸古閑官軍砲台跡 徒歩で約10分 ㊹薩軍兵站の地 徒歩（登り）約10分 ㊺横平山戦跡（公園） 徒歩で約30分 ⑦七本柿木台場薩軍墓地 徒歩で約25分 ⑥田原坂公園・田原坂西南戦争資料館 徒歩で約10分 ③谷村計介之碑 徒歩で約15分 ②豊岡眼鏡橋 徒歩で約20分 ㊲正念寺 徒歩で約5分 ㊴高月官軍墓地 徒歩で約5分 JR木葉駅

熊本協同隊の幹部たち